



序 文

阿波学会会長 小 林 勝 美

三好市は平成18年4月1日に山城町・池田町・井川町・三野町・西祖谷山村・東祖谷山村が合併し発足しました。平成19年2月2日の新聞報道によりますと、四国96市町村で第1位の面積であるとのこと。今回の平成大合併で、徳島県は50市町村から24市町村（8市16町村）に統合され、少子高齢化や過疎地の社会変化に対応し、併せて行財政改革の断行を目指すことになりました。

阿波学会では市町村合併に際して、総合学術調査の調査地の選定や実施方法、内容等を検討しましたが、調査の最大目的である地域貢献を優先し、合併前の市町村単位で実施し、学術報告書を完成させる意見が大勢を占めました。特に、自然系の学会においては、これまで市町村単位で分布図を作成しており、県下全域の調査分布図を完成させることが大きな目標でありました。三好市は旧東祖谷山村だけが未調査であり、剣山系に連なる自然豊かな土地、また伝統芸能を中心に民俗的伝承が多く残る地域で、各学会からの調査希望が多くありました。さらに平成17年度には落合地区が国選定重要伝統的建造物群保存地区（重伝建）に指定されるなど、明るい話題もありました。

今回の調査は、平成18年7月28日より8月6日までの10日間、16学会18班の調査班が参加して、猛暑の中に実施しました。結団式当日は幸い天候にも恵まれ、また若い調査員の参加も数多くみられ、会場全体に活気がみなぎっていました。

三好市での総合学術調査は、昭和46年祖谷・松尾川流域、昭和53年山城町、昭和54年池田町、平成9年井川町、平成14年三野町と実施し、今回の三好市東祖谷で完了となりました。新しい市制発足にあたり、科学的な総合学術調査が実施され、歴史的文化的な基礎資料が加味されました。しかし、現地調査で見聞したものは、古い物が失われていく現実であり、私達は過去の歴史事象を検証し、住民の生活環境を守ることの大切さや、深刻な自然環境の変化に対応し、人間と動植物との共存共栄を考えなければならないことを痛感いたしました。この阿波学会紀要が三好市の地域間の結びつきを構造的に解明する参考資料となり、地域の文化や文化財の保存保護及び顕彰と活用が図られる指針となれば幸甚に思います。

最後に総合学術調査に御協力と御助言をいただきました、俵徹太郎三好市長をはじめ、市教育委員会及び同東祖谷分室、地元住民の方々に心よりお礼申し上げます。